

## 音楽科における「言語能力」の整理

表現領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたことを言語化する。</li> <li>曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたこと／理解したことを言語化する。</li> <li>音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思い／思いや意図を言語化し、交流する。また、音や音楽にそれらを生かし伝え合う。</li> </ul>
鑑賞領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことを言語化し、伝え合う。</li> <li>音楽によって喚起されたイメージや感情を言語化する。</li> <li>曲想と音楽の構造との関わりについて言語化する。</li> <li>自分にとっての音楽のよさや面白さなどを見だし、言語化する。</li> </ul>

## 言語能力と育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたこと／理解したことを言語化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を構成する諸要素の正しい理解を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の働きかけの工夫（問い返し、価値づけ）。</li> <li>板書による整理（知覚と感受の関連付け）。</li> </ul>
②音楽によって喚起された自分のイメージや感情について言語化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の可視化。</li> <li>語彙を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情を表す言葉、絵、色、線などを使って表す活動。</li> <li>体や物を使って音楽を表す活動。</li> <li>語彙表の作成、活用。</li> </ul>
③表現に対する思い／思いや意図を言語化し、交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの工夫。</li> <li>試行錯誤の時間の設定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの演奏を聴き合い、その工夫を予想したり伝えたりする。</li> <li>モデル提示の工夫（教師の模範演奏、映像教材の活用、友達の演奏を聴くなど）。</li> <li>思いや意図を表すための試行錯誤をくり返し設定する。</li> </ul>
④曲や演奏の楽しさ／よさについて見いだしたことを言語化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のまとめ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1単位時間または題材中の曲ごとのまとめとして、その曲や演奏の楽しさ／よさについて振り返り、交流する。</li> </ul>
⑤自分の学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふり返しシートの工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材全体の学びの跡を残すワークシートの作成、活用。</li> </ul>

## 実践の概要 ～第3学年「くり返しを楽しもう」における実践～

題材名「くり返しを楽しもう」

教材曲「ゆかいな木きん」「春の小川」「山のポルカ」「歌えバンバン」

### 1 題材の構想

本題材は、第2学年の「はくのまとまりをかんじとろう」や「リズムをかさねて楽しもう」、そして次学年の「いろいろなリズムを感じ取ろう」の学習に関連している。互いの音を聴き合いながら演奏することや、反復や変化を用いてまとまりのあるリズムをつくることを通して、拍の流れやリズムに対する感覚、演奏表現に必要な基礎的な能力を養うことをねらいとしている。そこで軽快な2拍子の「ゆかいな木きん」や、既習曲「春の小川」「山のポルカ」「歌えバンバン」などを扱う。「ゆかいな木きん」は主旋律が8分音符の軽快なリズムで構成されているとともに、似た音型の反復でできていることから、拍にのって楽しく歌ったり演奏したりしやすい。また、無理なく合奏や歌唱に取り組むことができる曲である。既習曲の反復や変化と関連付けながらそれらの仕組みを楽しみ、リズムづくりへとつなげていく。自分のリズムと友達のリズムをつなげて一つのリズムにしたり、模倣したりすることで、拍に対する感覚を一層伸ばしながら、協働して表現する楽しさを味わうことができる構成とする。

本学級は、歌ったり楽器を演奏したりする学習に意欲的に取り組む児童が多い。5月に行った意識調査によると、友達と一緒に歌ったり、演奏したりすることを楽しんでいる児童が35名中28名である。また、児童はこれまで、帯活動として拍にのってポーズを決める遊びや、友達のリズムを模倣して打つリズム遊びに多く取り組んでいる。このように遊びの中で楽しみながら培ってきたリズム感覚を、協働的な音楽活動を通してより一層伸ばしながら、音楽の仕組みについて知り、音楽のよさや面白さに注目できるようにしたい。

第一次では拍の流れにのって班や学級全体で一体感のある演奏をすることを目指し、学習を展開する。拍の流れにのって演奏することや、自分のパートの役割を知り、互いの音を聴き合いながら演奏する大切さに気付く経験をすることで今後の表現活動へつなげていきたい。本時では、“あっちいってこんこんこん”“こっちきてこんこんこん”の反復した旋律をどのように演奏するか、強弱やパート分けなどの演奏の工夫を考える活動を設定し、反復や変化によるよさや面白さを味わいながら合奏に取り組むようにする。さらに既習曲を反復や変化の視点で振り返ることで、今後出合う曲についても、児童が反復や変化についての気付きを持てるようにしたい。第二次では、反復と変化が生み出すまとまりのあるリズムについて知り、それらを生かしたリズムをつくる活動を行う。そして、友達とつなげたり模倣したりすることで、拍の流れに対する感覚を育てていく。また友達がつくった様々なリズムを聴き合ったり、模倣して演奏したりすることで、リズムの違いの面白さや表現の多様性を感じ取らせたい。

### 2 題材の目標

- ・拍子やリズムの特徴などと曲想との関わりに気付き、拍にのって表現する技能や、反復や変化を用いてまとまりのあるリズムをつくる技能を身に付ける。 【知・技】
- ・拍子やリズム、旋律の特徴を捉え、そのよさや面白さを味わって聴いたり、どのように表現するか、どのようにまとまりを意識したリズムをつくるかについて思いや意図をもったりする。 【思・判・表】
- ・拍子やリズムの特徴が生み出すよさや面白さを感じ取って聴いたり、それらを生かして表現したり、友達と協働してまとまりのあるリズムをつくったりする学習に進んで取り組む。 【主】

### 3 題材計画

第一次 2拍子にのって演奏する。(1～4時)

第二次 反復や変化を使ってまとまりのあるリズムをつくる(5, 6時)

### 4 本時の指導(3/6)

#### 指導目標

反復や変化が生み出すよさや面白さを感じ取り、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができるようにする。

#### 本時の評価規準

反復や変化が生み出すよさや面白さを感じ取り、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 【思考・判断・表現】

#### 本時の展開

学習活動と児童の発言や反応 ( [ ] )	教師の意図や働きかけ, 形成的評価 (◆)
1 本時の活動を知る。(5分)	1 曲想と音楽の仕組みとを関連づけ, 本時の活動を 確認する。
演奏の仕方を工夫してくり返しを楽しもう	
2 演奏の仕方を工夫する。(10分) (1) 個人で考える。 (2) 話し合う。 ・くり返しだけど, 大きさを変えて楽しくしたいな。 ・1回目と2回目で人数を変えよう。 ・あっちに行く感じとこっちに行く感じにしたいな。 鍵盤ハーモニカと木琴で分かれるのはどうかな。	2-(1) どのように演奏するかについて, 「もっと楽し い演奏にするため」という視点を与える。 2-(2) 演奏の工夫やその理由を問い, 思いや意図につ いて価値付ける。 ◆どのように演奏するかについて思いや意図をもつ ている。(ワークシート・発言)【思・判・表】 B どのように演奏するかについて思いや意図を もち, 強弱や音色などの演奏の仕方を工夫してい る。 C 演奏の仕方の工夫が思いつかない。または思い や意図と演奏の工夫が結びつかない。 →友達の意見を聞くよう促し, やってみたい演奏の 工夫を問う。
3 工夫を共有し, 合奏する。(15分) ・息を合わせて鳴らそう。 ・鍵盤ハーモニカと木琴で分かれよう。 ・もっとはねている感じで演奏したいな。 ・近いところと遠いところで鳴らしているみたいだね。 ・やってみたらおもしろいな。 ・〇〇さんは私と同じ工夫の仕方だ。 ・(拍にのって演奏を楽しむ姿)	3-(1) 演奏の工夫を全体で共有し, 合奏してどのよう に感じたかを問う。 3-(2) 互いの音を聴き合いながら, 拍にのって演奏し ている姿を称賛する。 3-(3) 思いや意図を明確にするために, 自分のお気 入りの演奏の工夫を選ぶよう促す。
4 身近な音楽の反復や変化を見つける。(10分) ・全部にくり返しがあるよ。 ・リズムは同じだけど, 音の高さが違うね。 ・歌えバンバンにはくり返しはないんじゃない? ・いや, この部分だけ小さいくり返しがあるよ。 ・もう一回できているよ。	4-(1) 既習曲や児童が提案した曲について, 旋律に着 目できるように主な旋律をピアノで演奏したり, 旋 律のリズムを一緒に手拍子したりする。 4-(2) 反復や変化という特徴と曲想との結びつきにつ いて板書で整理する。
5 本時を振り返る。(5分) ・音の大きさを変えて繰り返すのが面白かったです。 ・今までに習った曲にもこんなにくり返しがあると 思いませんでした。 ・くり返しがあるのは同じでも, 演奏の仕方であらう 感じになるとわかりました。	5 リズムが反復している部分を強弱や楽器の音色で 変化させることで, どのように感じたかを問う。

授業の実際と考察 ～第3学年「くり返しを楽しもう」の実践を通して～

1 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたこと／理解したことを言語化する力の育成

曲想をつかむための手立てとして、児童が述べた様々な思いや気づきを結び付けながら板書にて整理し可視化した(図1)。次第に児童は、板書を見ながら友達の意見を聞き、「それは左だよ。思ったことだもん。」などと知覚と感受をわけながら述べるようになった。また、教師が「なぜそう感じたのだろうか?」と問い返ししながら児童の気づきを結び付けていった。学級全体で共有し、一人の気づきを全体に広げ、曲想と音楽の構造などとの関わりについて深めていくことにつなげた。児童自ら知覚感受を関連付けて記述することは難しかったが、板書やワークシートによる可視化と教師の問い返しや価値づけにより、言語化をしていった。

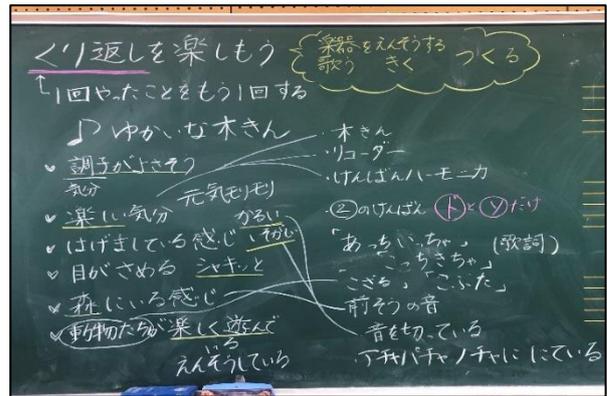


図1 1時目の板書

2 表現に対する思い／思いや意図を言語化し、交流する力の育成

試行錯誤し表現できる場を、3時目に設定した。反復する部分をよりよくするためにはどのような演奏の工夫があるか、グループや全体での対話と実際に表現する活動とをくり返し行った。演奏をどう工夫するか、思いや意図を言語化することが難しい児童がいることは想定された。そのため、班の友達の意見を聞いて「そのような演奏の仕方もあるのか。」「やってみたらどんな音色になるかな。」と考えを広げ、話し合う時間を設けた。話し合い、すぐに音楽で表すことで、表したい音楽をどうにかして言葉で説明しようとする姿勢や言葉を選んで伝える姿が見られた。また、その交流をつなげたり新たに自分の思いや意図を言語化できるよう、教師が問い返しや価値づけを行ったりした(図2)。

C1: こっちで大きくしてこっちで小さくしようよ。  
 C2: ああいいね。  
 T: 大きさをかえたらどんな感じがする? やってみよう。  
 (演奏)  
 C3: 小さい方は遠くにいったみたい。  
 T: おお〜。音の大きさで、感じが変わりますね。  
 C4: 今度はだんだん大きくしてみよう。  
 C5: 鍵盤ハーモニカとリコーダーで音を変えようよ。  
 C6: 楽しい感じになりそう。  
 (演奏)  
 T: 音楽の言葉でいうと、何をかえたことになるかな?  
 C: 音! 楽器の音色!  
 T: そうですね。楽器の音色がかわると音楽の漢字もかわるね。  
 C7: 別の方法でもやろう。

図2 児童の話し合い

3 自分の学びを振り返る力の育成

児童が題材を通して自分の学びを振り返り、次の学習へと生かしていくことができるように、振り返りのワークシートを題材全体でまとめた。観点別の振り返り(図3①)と自由記述(図3②)におけること

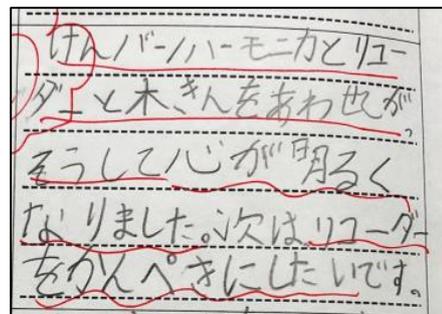


図4 児童の振り返り

で、児童が自分の学びを言語化しやすいようにした(図4)。

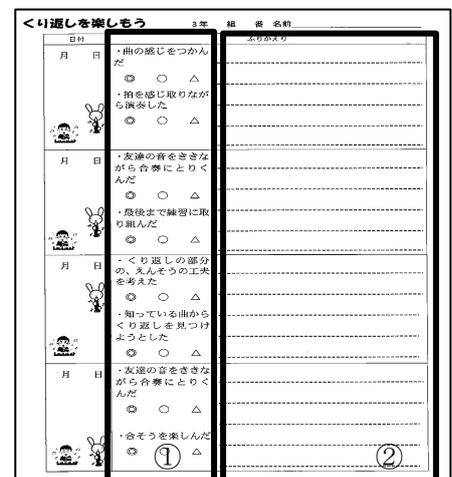


図3 振り返りシートの一部